

MIZUHO ZTA 骨頭

再使用禁止

【禁忌・禁止】

〈適用対象（患者）〉

適用部位もしくはその近くに局所の炎症、膿瘍、発熱、急性の骨吸収の所見など、感染の兆候を示す患者、または赤血球沈降速度の亢進や白血球の増加を示す患者には適用しないこと。[手術により症状が悪化する恐れがある。治療の為にインプラント抜去が必要になる恐れがある。]

〈使用方法〉

- (1) 再使用禁止。
- (2) 再滅菌禁止。[製品の品質低下や汚染の恐れがある。]
- (3) 一度骨頭ボールと嵌合した大腿骨ステムには、本製品は使用しないこと。[一度骨頭ボールと嵌合した大腿骨ステムのテーパ面には傷がついている可能性がある。テーパ面に傷がある大腿骨ステムにセラミック製骨頭ボールを使用すると、骨頭ボールの強度が低下し、術後に本製品の破損が生じる可能性がある。]
- (4) 本製品の嵌合時には専用の骨頭打込器を使用し、金属製ハンマーなどで直接叩いたり、金属製器具等の硬い物体を衝撃的に接触させたりしないこと。[本製品の材料であるセラミックスは金属材料とは異なり、いわゆる脆性を示す材料である。破損する恐れがある。]
- (5) 鏡面に研磨された本製品の摺動面の表面に、傷、クラックなどをつけないこと。[人工関節の耐久性を損なうことがある。]
- (6) 大腿骨ステムと本製品を嵌合する際、大腿骨ステムと本製品のテーパ面が、セメント、骨、血液などで汚染された状態のまま、もしくはテーパ面に傷がある状態で嵌合しないこと。嵌合前にこれらについて確認し、汚れなどがある場合は、完全にふき取ること。大腿骨ステムのテーパ面に傷がある場合は、金属製骨頭ボールを使用すること。[骨頭ボール強度が低下し、術後に本製品が破損する恐れがある。テーパが正しく嵌合されず、本製品のゆるみや分離の恐れがある。]

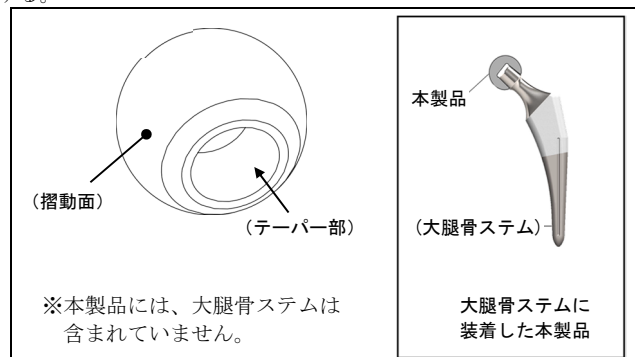
【形状・構造及び原理等】

- (1) 本製品は、骨頭ボールである。
- (2) サイズ等については外装箱の表示ラベルに記載されている。
- (3) 材質は次の通りである。

材質名	ジルコニア強化アルミナ
-----	-------------

〈原理等〉

本製品は、大腿骨髄腔に挿入された大腿骨ステムに装着され、寛骨臼コンポーネント内面と摺動することにより、股関節機能を代替する。



【使用目的又は効果】

変形性股関節症、関節リウマチ等の疾患による関節障害に対して行われる人工股関節置換術又は人工骨頭挿入術に用いる。

【使用方法等】

1. 使用方法

人工股関節置換術、人工骨頭挿入術に使用する。

本製品には、直接骨セメントを使用しない。

本製品は、滅菌済み製品である。本製品は、1 回限りの使用のみで再使用はできない。

2. 設置方法

(1) 術前

手術前に計測を行い、適切な形状寸法のものを選択する。

(2) 手術

専用手術器具を使用して、以下の手順で本製品を設置する。

- 1) 大腿骨頸部を切断して骨頭を除去した後、大腿骨近位部の髄腔を形成する（図 1）。

- 2) 大腿骨ステムを髄腔内に設置する（図 2）。

- 3) 本製品を大腿骨ステムのテーパ部に装着する（図 3）。



〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

- (1) 詳しい使用方法については、取扱説明書を参照すること。
- (2) 本製品のテーパ部の形状と寸法は、当社が確認した 12/14 テーパシステムとのみ適合する。下記製品の 12/14 テーパシステムと組み合わせて使用すること。下記以外の製品については発売元に問い合わせること。[指定外の製品と組み合わせて使用した場合、術中もしくは術後にインプラントの破損や分離が生じる恐れがある。]

人工股関節大腿骨ステム

販売名	承認番号
MX-300 HIP システム	23000BZX00384000
MIRFY HIP システム	23000BZX00382000

- (3) (2)の他、下記の製品と組み合わせて使用すること。下記以外の製品については発売元に問い合わせること。

* 寛骨臼コンポーネント

販売名	承認番号
白蓋カップ GA36	21100BZZ00481000
Aquala ライナー	22300BZX00234000

- (4) 使用するコンポーネントを選択する際は、組み合わせて使用する各コンポーネントのサイズが互いに適合しているかを確認すること。
- (5) 本製品には X 線テンプレートが用意されている。術前にこの X 線テンプレートを利用し、本製品が患者の関節の解剖学的形状に適合していることを X 線写真上で確認すること。
- (6) 本製品には専用器具が用意されている。インプラントの組み立て、把持、骨への設置には、専用器具を使用し、定められた方法で行うこと。
- (7) 大腿骨ステムを骨に打ち込む際には、本製品を装着していない状態で行うこと。本製品を装着した大腿骨ステムの打ち込みは、絶対行わないこと。[あらかじめ本製品を大腿骨ステムに装着して大腿骨ステムを槌打した場合、反作用により、本製品がゆるんで脱落したり、破損したりする恐れがある。]
- (8) 本製品の嵌合手順

取扱説明書を必ずご参照ください。

- 1) 大腿骨ステムと本製品を嵌合する際は、大腿骨ステムを大腿骨に設置した後に、本製品を大腿骨ステムに装着すること。
- 2) 手術器具などで大腿骨ステムのテーパー部分を損傷しないように注意すること。
- 3) 本製品は、回しながら大腿骨ステムのテーパー部に装着する。専用の骨頭打込器を介して3～5回強く槌打した後、本製品が大腿骨ステムのテーパー部に完全に嵌合したことを確認すること。
- 4) 大腿骨ステムと本製品を嵌合する際には、必ず本製品のテーパー面と大腿骨ステムのテーパー面が完全に密着していることを確認してから、専用の骨頭打込器を介して打ち込むこと。[本製品が斜めに入った状態で打ち込むと本製品に損傷を与える恐れがある。]
- (9) 人工関節を整復して創を閉鎖する前に、人工関節のすべての摺動面と関節腔内を十分洗浄すること。[摺動面に骨片等の異物が介在すると、摺動部の摩耗が加速され、人工関節の耐久性が低下する恐れがある。]
- 4) 人工関節のゆるみは、再置換術を必要とし、ある特定の状況下では、関節機能を回復する機会が永久に失われてしまう場合がある。
- 5) 人工関節は、負荷作業およびスポーツがもたらす極めて過度のストレスには耐えられない。
- 6) 人工関節置換術後は、医師の指導による定期的な検診を受ける必要がある。
- 7) 退院後の日常生活についての遵守事項、注意事項等（可能肢位や不良肢位等）に関して、医療機関より指導されるべき情報。
- (4) 術中は専用器具に含まれるトライアルを利用して、製品の選択、設置及び固定が適切かどうかを確認すること。また、人工関節の仮整復時には、必要な可動域が得られているか、また、関節の緊張度が適切かどうかを確認すること。
- (5) 術後においては、インプラントの設置が適切であるか確認すること。
- (6) 手術で使用された製品のレコードカードはカルテに貼付すること。（トレーサビリティの確保のため）

【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

- (1) 以下のような術後管理ができない患者。[インプラントの安定性が得られなかったり、手術後のケアが困難であったりする恐れがある。]
 - ・ 認知症またはその他精神的障害
 - ・ 薬物中毒
 - ・ アルコール中毒
- (2) 神経筋肉系の障害のある患者。[術後脱臼やインプラントの安定性が得られない恐れがある。]
- (3) 股関節外転筋の機能不全のある患者。[人工股関節の期待される機能が得られない恐れがある。術後脱臼の恐れがある。]
- (4) 骨格が未成熟な患者。[骨格の成熟により、インプラントの骨への固定が得られない恐れやインプラントのサイズが不適切になる恐れがある。]
- (5) 重度の骨粗鬆症などで、骨質が不良、または骨量が不十分な患者。[設置したインプラントが著しく移動する、または骨折を生じる恐れがある。]
- (6) 人工関節の機能に過度の期待を持つ患者。[インプラントの耐用年数や必要な術後管理等への理解が得られないことがある。]
- (7) インプラントの固定に影響を与えるような骨欠損のある患者。[術後脱臼やインプラントの安定性が得られない恐れがある。]
- (8) 骨粗鬆症、骨軟化症など骨形成に障害をきたすような代謝性疾患、血行障害のある患者。[インプラントを適正に支持できなくなる恐れがある。]
- (9) 肥満症の患者。[インプラントの緩みや破損が生じる恐れがある。]
- (10) 本製品の材料に対するアレルギーや過敏症の既往を有する患者。[手術により当該症状を発症する恐れがあるため。]
- (11) 高度な変形性関節症や過去に施術された骨切り術等により、軸位置決めの際の過誤や製品埋入に妨げとなる骨状態の患者。[製品を正常に設置できず、正しい機能を発揮できない恐れがある。]

2. 重要な基本的注意

- ** (1) 本製品は非金属、非導電性、非磁性の全てを満たす材料で構成されるためMR Safeである。ただし、組み合わせて使用する製品のMR安全性に関する情報を確認すること。**
- (2) 人工関節の術後可動域は、インプラントの骨への設置条件によって大きく影響を受ける。従って、術前に患者に必要な術後可動域とそれを獲得するための各インプラントの設置条件を確認すること。
 - (3) 本製品の適用においては患者に以下の事項について説明すること。
 - 1) 人工関節は常に本来の関節より、その機能が劣り、人工関節置換術前の状態と比較して相対的に良好な状態しか得られない。
 - 2) 人工関節の耐用年数には限りがあること、また耐用年数の延長のため運動制限や減量などの術後管理が課せられる場合がある。
 - 3) 人工関節は過負荷や摩耗によってゆるむことがある。

3. 不具合・有害事象

(1) 重大な不具合

- 1) 大腿骨及び寛骨臼コンポーネントが、外傷時に変形または破損する場合がある。
- 2) 人工股関節置換術後の大腿骨コンポーネントの疲労による破損が報告されている。骨頭ボールの破損は、体重が重く活動的な患者の場合に、または反対側の関節に障害があるため設置した人工関節にかかる負荷の分布が不均衡になる場合に起こりやすいとされている。

(2) 重大な有害事象

人工関節の術中および術後に、まれに以下に示す様な有害事象が発現することがある。

- ・ 血腫、静脈血栓塞栓、肺塞栓等の血栓塞栓症。
- ・ 心筋梗塞。
- ・ 神経障害。
- ・ 感染症。

(3) その他の有害事象

- 1) 人工関節置換術の合併症として、術後感染、脱臼、ゆるみ、移動、骨折、周囲組織の異所性骨化等があげられる。
- 2) 上記の人工関節のゆるみに関して、早期のゆるみは、不適切な初期固定、潜在的な感染、早すぎる荷重の負荷等が原因であり、また、中、長期経過後のゆるみは、生物学的な問題、局所的な高いストレスが原因で起こっていると考えられる。また、インプラントの不適切な設置位置や方向がゆるみの原因になる恐れがある。
- 3) 術後、患肢に屈曲拘縮、可動域の減少、脚の延長または短縮が生じる場合がある。
- 4) 周囲組織の異所性骨化が脱臼の原因となることがある。
- 5) 大転子切離を併用する術式において、大転子の癒合不全が、免荷期間が短か過ぎる場合や、転子部の固定が不適切な場合に起こる恐れがある。

4. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

妊娠中の患者には慎重に適用すること。[骨密度が低下し、インプラントが適正に固定されない恐れがある。体重が増加し、インプラントへの負荷が大きくなり破損する恐れがある。]

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件

高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 使用期限（自己認証による）

使用期限（年月）は外箱に記載。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

京セラ株式会社
TEL：0120-923725

〔発売元〕

製品に関するお問い合わせにつきましては下記までご連絡ください。

ミズホ株式会社 販売事業部
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目30番13号
TEL：03-3815-3097 FAX：03-3813-5068